



# コタンメール 46号

平成 21 年 8 月 18 日 発行



**アイヌイタク クエラムアン！！（アイヌ語おぼえたよ！！）**  
**アイヌ語教室子供向け企画無事終了**



**ヘタク ヘマンタ クヌイエ？（さあ、何を描こうかな）**

8月4日、7日、9日の3日間にわたり、しらおいアイヌ語教室の子供向け企画第2弾として、アイヌ語の絵本作りを行いました。講師の楠本克子氏が用意した動物の鳴き声、言葉遊び、昔話など、アイヌ語にちなんだ子供向けの題材から好きなものを選び、白い絵本に絵の具やクレヨンで思い思いの絵を描きました。

最年少の参加者は、絵本いっぱいキムンカムイ「くま」、ラヨチ「虹」などの好きなものの絵を描きました。これに、講師がアイヌ語の文章をつけて絵本にしたりと、子供達らしいオリジナリティ豊かな作品が揃いました。

最後は、自分の描いた絵本を手に、アイヌ語の文を読みあげて発表し、教室を終えました。

アイヌ語の発音も、大人顔負けの上達ぶりでした。

これらの楽しい絵本は、9月頃に博物館で展示する予定です。ご家族、お友達と一緒にご覧になってください。

（きたはら じろうた）



**ヘカッタラ ホリッパ ホリッパ！（子供達おどるおどる！）**

絵本作りの合い間、8月8日に歌と踊りの教室を開きました。講師は伝承課・学芸課の職員です。この日は、札幌からも3人の男の子が参加し、幼児から中学生までがポロチセと一緒に汗を流しました。

はじめに、サパ「頭」、テケ「手」、ホニ「おなか」などの言葉を覚えて、踊りの準備です。いつもながら、子供たちはすぐに覚えてしまいました。そして、五弦琴トンコリと歌に合わせ、



頭や手をふる、おなかやおしりをポンポンたたく、といったお遊戯をして楽しみました。

男の子たちがいちばん張り切ったのは、やはりエムシリムセ「刀の踊り」です。2人ひと組になって、子供用のエムシを持ち、講師の動きを見ながらいっしょうけんめい踊ります。独特の足運びもすぐに覚え、真剣に取り組む姿に、ちびっ子といえどもりりしさが感じられました。

（きたはら じろうた）



## シリカブポロルウェ！ケラアンフミ！（カジキマグロ大きい！美味し

8月17日に、毎夏の恒例となったシリカブ送り「カジキマグロ送り」を行いました。

5月にとれたシリカブカムイをポロチセ横へ運び、解体してから屋内へ迎え入れました。するどい鼻を囲炉裏に向けた様子は、偉大なカムイにふさわしい威厳ある姿です。

胸ビレ、尾ビレなどを、元の姿と同じ位置になるように並べてから、頭部の解体を行いました。頭、目玉、脳など、どれもおいしい食材となります。こうして祈りを捧げることで、シリカブの魂は神界へ帰って行きます。神事を終えたあとは、見学者を交えて昼食となりました。今回送られたシリカブの身をつかったオハウ（塩汁）や刺身などは、初めて食べるというお客さんにも大変好評でした。

（きたはら じろうた）



### メタボックルに聞こう

Q：メタボックルさん、イランカラブテ。今日は何をしてるんですか。

メ：チクパキキリ(クワガタ)と一緒に、甘いニワッカを飲みに行くところルウェネ。

Q：ニワッカ？…木、みず…ああ、樹液ですか。お好きなんですか？

メ：うむ、ニトペ(木のミルク)とも言うくらい、ケラアンペネ(美味しいもんだ)。トペニ(イタヤカエデ)とか、タツニ(シラカバ)から取るルウェネ。これで酒も作れるルウェネ。

Q：へー、すごいですね。頭に着けてるものはニワッカを取る道具ですか。

メ：これは、あれよ。ペラウシトミカムイっちゅって、大事なイコロ(宝物)ネルウェネ。病気でも何でも治っちゃう、大したありがたいイコロ ネルウェネ。あんまり大事だから、山の蔵に隠しておいたくらい貴重なものネルウェネ。

Q：は一、それも知りませんでした。それで、宝物をどうするんです？

メ：きょうは、あれ。コスプレ。やっぱり、おそろいで出かけたから。

Q：……。メタボックルさん、ありがとうございました。イヤイライケレ。

メタボックル：身長 50mm 腹囲？ 出身？ 年齢？  
行きつけスポット 森のパン屋「tuk-tuk」

